

平成22年5月1日現在

研究種目：基盤研究（C）  
研究期間：2007～2010  
課題番号：19520093  
研究課題名（和文） イタリア・ルネサンスにおけるシビュラの研究

研究課題名（英文） Study of Sibyls in Italian Renaissance

研究代表者

伊藤 博明（ITO HIROAKI）  
埼玉大学・教養学部・教授  
研究者番号：70184679

研究代表者の専門分野：人文学

科研費の分科・細目：美学・美術史

キーワード：シビュラ、バルビエーリ、サンタ・トリニタ聖堂、システイーナ礼拝堂

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、イタリア・ルネサンスのシビュラについて、その展開と多様性について総合的に解明することである。具体的には、以下の3つの観点から研究は行われる。

(1) シビュラ像と中世的伝統との関係を明らかにする。中世後期・末期に編纂されたシビュラの託宣集、および、その影響のもとにルネサンスにおいて成立した新しい託宣集という、中世に遡る文献的伝統の中で、ルネサンスに描かれたシビュラ像を位置づける。

(2) シビュラ像と同時代の文学的・思想的テキストとの連関を明らかにする。ルネサンス期に描かれたシビュラ像を同時代の文化的コンテクストの中で把握するために、マルシリオ・フィチーノやエジディオ・ダ・ヴィテルボなどの思想的文脈を、またペトラルカからブルーニやランディーノを経て、ポンターノやサンナザーロへまでいたるイタリアの文学的伝統を考究する。

(3) シビュラ像の時代的な展開について明らかにする。15世紀中葉にローマのオルシーニ邸に描かれた12人のシビュラ像から始めて、ミケランジェロがシステイーナ礼拝堂に描いたシビュラ像まで、イタリア・ルネサンスにおける数多くのシビュラ像を、上述の文

学史的な観点や思想史的観点をも踏まえつつ、網羅的にかつ系統的に分析する。

2. 研究の進捗状況

(1) イタリア・ルネサンスにおけるシビュラの文学・思想的研究として、①ジョヴァンニ・ポンターノ、ヤコポ・サンナザーロらナポリの人文主義者、②エジディオ・ダ・ヴィテルボら教皇庁にありながら、マルシリオ・フィチーノのフィレンツェ・プラトン主義の影響を受けた神学者、③ジョヴァンニ・ネージラフィレンツェの宗教改革者の言説を検討して、15世紀後半のイタリアにおけるシビュラへの広範な関心について考察した。

(2) イタリア・ルネサンスにおけるシビュラ文献の研究として、①15世紀初頭にローマで成立した「12人のシビュラの託宣」と②フィリッポ・バルビエーリの『聖なる博士ヒエロニムスとアウグスティヌスの不一致』に収められたシビュラの託宣について、パリのアルセナル図書館、リエージュの修道院図書館などで、写本を含めた調査をおこなって、校訂版を作成するための基礎的な作業をすすめ、合わせて、中世後期のシビュラ文献との関連について考察した。

(3) イタリア・ルネサンスのシビュラ図像の

研究として、①アゴスティーノ・ドゥッチョによるリミニのテンピオ・マラテスティアーノ、②ドメニコ・ギランダイオによる、フィレンツェのサンタ・トリニタ聖堂、③ペルジーノによる、ペルージアのコッレージョ・カンピオ、④フィリッピーノ・リッピによる、ローマのサンタ・マリア・ソプラ・ミネルヴァ聖堂にそれぞれ描かれた複数のシビュラ像を、上述の文学・思想的背景、およびシビュラ文献との連関で考察した。

### 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

(1)本研究において、最も重要な課題であった、①15世紀初頭にローマで成立した「12人のシビュラの託宣」と②フィリッポ・バルビエーリの『聖なる博士ヒエロニムスとアウグスティヌスの不一致』に収められたシビュラの託宣については、フランスとベルギーの各図書館において、ほぼすべてのインクナブラと写本の調査を行い、また、参観できなかった写本についてもデジタル資料を入手して、十分な研究をすることができた。

(2)シビュラ図像に関しては、①アゴスティーノ・ドゥッチョによるリミニのテンピオ・マラテスティアーノ、②ドメニコ・ギランダイオによる、フィレンツェのサンタ・トリニタ聖堂の現地調査を行い、十分な分析を行うことができた。

### 4. 今後の研究の推進方策

(1)ルネサンス・シビュラ文献の研究——①「聖史劇」(ベルカラーリ『聖告』、『レヴェッロの受難』など)の研究をさらに進め、また、②ローマのオルシーニ邸壁画に描かれた12人のシビュラに関するテキスト『キリストの受肉に関する12人のシビュラの予言』、③15世紀後半にフィレンツェで活躍したバッチョ・バルディーニの銅版画連作(12人のシビュラ像とテキスト)、④フィリッポ・バルビエーリが1481年に刊行した『聖なる博士たち、ヒエロニムスと

アウグスティヌスの不一致』(12人のシビュラ像の木版画を含む)については、テキスト・クリティックをおこなって校訂版を作成し、それに基づいた研究を進める。

(2)シビュラ図像の研究——①ミケランジェロ、システーナ礼拝堂天井画、②ラファエッロによる、ローマのサンタ・マリア・デッラ・パーチェ聖堂キージ礼拝堂、③サルツァのカーザ・カヴァッサの壁画などに描かれたシビュラについて、ルネサンス・シビュラ文献、および思想的・宗教的な背景を鑑みながら考察する。

### 5. 代表的な研究成果

[雑誌論文](計1件)

(1)「ティブルのシビュラ——中世シビュラ文献の紹介と翻訳(1)」、査読無、『埼玉大学紀要(教養学部)』、45巻1号、2009年、1-12頁。

[学会発表](計1件)

(1)「ティブルのシビュラとエリュトライのシビュラ」、ルネサンス研究会、2009年7月4日、学習院女子大学

[図書](計2件)

(1)The International Emblem: From Incunabula to the Internet, ed. by Simon Mckeown, 共著 Cambridge, 2010, 264-282頁を執筆。

(2)『哲学史の哲学』、岩波講座「哲学」14、共著、岩波書店、2009年、197-230頁を執筆。

[翻訳](計2件)

(1)エリカ・ラングミュア『天使』、ありな書房、2010年、80頁。

(2)オットー・ウェニウス『愛のエンブレム集』、ありな書房、2009年、226頁。